

第75号 社協だより

発行日：令和5年10月27日
発行所：社会福祉法人喜界町社会福祉協議会
〒891-6201
喜界町赤連22番地（老人福祉センター内）
Tel 65-0887・0449
<http://kikai-shakyo.org/>

～ 就 任 挨拶 ～



この度、社会福祉協議会会長に就任しました。微力ながら本町福祉の増進に努めてまいりたいと思います。よろしくお願い致します。

社会福祉協議会（以下社協。）は社会福祉事業法（現社会福祉法）で、地域福祉の中核的推進団体として位置付けられています。しかし、住民の認知度は不十分だったように思います。振り返れば、本町社協は昭和60年に法人化され役場から現在の町老人福祉センターに事務所を移転しました。その当時、措置制度の基に地域福祉（在宅）と施設福祉（入所）

に分けられて行政処分として福祉サービスが提供されていました。老人ホームは町営で、社協は家庭奉仕員派遣事業（ホームヘルパー）を町から受託運営していました。高齢者福祉においては、平成12年に介護保険法が施行されて以降は、介護サービスは住民が要介護度に応じ選択して制度を利用できるようになりました。また、入所施設も含めた地域福祉の中の資源としての考え方が一般的になってきました。障害福祉においても、平成18年に障害者自立支援法、平成25年に障害者総合支援法が施行され、障害の種類（身体・精神・知的）を一つにまとめ支援区分に応じたサービスを受給できるようになりました。本会においては、介護保険事業は訪問介護（H12年）、訪問入浴介護（H12年）、福祉用具貸与販売（H18年）、居宅介護支援（H12年）、小規模多機能ホーム十五夜（H25年）、グループホームがじゅまる（H30年）、障害福祉サービス事業は居宅介護（H6年）、相談支援（H24年）、の運営をして参りました。近年では生活困窮者自立支援事業や成年後見事業、有償ボランティア育成、介護予防事業にも取り組んでいるところです。社会の変化や成熟に伴って、人口減少、少子高齢化、自殺、いじめ、ひきこもり、DV、8050問題等、福祉課題はますます多様化し複雑化していく傾向にあります。その変化に柔軟に対応できるよう体制整備を進めていきたいと思ひます。そのためにも住民の皆様、関係機関の方々にご協力を頂きたいと思ひます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

会長 界田 満仁



この度、喜界町社会福祉協議会事務局長を拝命することになりました。誠に微力ではございますが、前事務局長の方針を受け継ぎつつ、多様化する福祉ニーズに対応すべく精一杯努めて参ります。今後とも、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

事務局長 盛澤 健太

この広報誌は、赤い羽根共同募金の配分金が活用されています。

令和4年度事業実績報告

令和2年からの新型コロナウイルス感染症は、昨年度においても猛威をふるい、マスク着用や手指の消毒、ソーシャルディスタンスを行いながらの業務であった。そのような中、8月にはグループホームがじゅまるで利用者4名職員7名が感染し事業の継続が危惧されたが、どうにか回避することができた。これは管理者をはじめとする職員全員の奮闘があったからこそであり心から感謝したい。

今年1月には重症化するケースが減少し感染者も減少傾向となった。また1月27日には政府が5月8日から感染症法上の第2類からインフルエンザ並みの第5類に変更することが発表された。このようなことから、2月から集合型の事業や対面での研修会が開催されるようになり、以前の生活環境が戻りつつあり、ようやく明るい兆しが見えてきた。

法人運営においては、理事会を3回、評議員会を3回、監事会を1回開催した。職員会を週1回、広報委員会を4回開催した。

地域福祉部門では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けサロンの中止や参加者の減少がみられた。3年間開催できなかった地域見守りネットワーク研修会を開催することができたが、一方では日赤奉仕団研修及びボランティア講座が実施できなかった。

ボランティア関係では、児童生徒のふれあいボランティア認定証を4名に交付した。生活支援有償ボランティア養成講座は2回開催して27名の受講があった。

権利擁護部門では、成年後見を必要とする方の相談窓口を設置し広報啓発を実施した。また判断能力の低下した方の支援のために通帳管理等を行う福祉サービス利用支援事業を実施した。

介護保険事業では、訪問介護、訪問入浴、福祉用具貸与、小規模多機能型居宅介護、グループホーム、居宅介護支援の6事業を実施した。

障害福祉サービスは居宅介護と移動支援、相談支援事業を実施した。

生活困窮者自立支援事業（くらし・しごとサポートセンター）では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け収入の減少や、失職した方の相談業務を実施した。

社会福祉法人が行うべき公益的な事業では、福祉用具無償貸出、法外援護資金の貸付、おもいやりネットワーク事業、フードドライブ、家電品中継事業を行った。

高齢化の進展に伴い介護職員の高齢化も深刻であり、募集を行っても応募がない状況が続いている。特に訪問介護は資格がなければ従事できないことが足かせになっており、このままいくと数年先には事業の継続が困難になる可能性もある。制度の人員基準を見直して介護従事者の入口を広げることも今後必要になるかと思われる。

※令和4年度末の文言です

運 営 ・ 管 理

理事会の開催：3回 評議員会の開催：3回 監事会の開催：1回

介 護 保 険 事 業

居宅介護支援事業 訪問介護事業 訪問入浴介護事業 福祉用具貸与事業
小規模多機能型居宅介護事業 認知症対応型共同生活介護・通所介護事業

地域見守りネットワーク支援事業

- ① 見守り活動等育成・・・見守りを基盤とした生活課題の把握。地区連絡会の開催（10集落14回）
② ネットワーク事業（生活支援）・・・民生委員・在宅福祉アドバイザーを核とした見守り声かけのネットワークの充実拡大。
一次支援 [安否確認] のべ7, 677回 二次支援 [話し相手・ゴミ出し・買物支援等] のべ3, 326回
三次支援 [専門業者への連絡] のべ47回 協力員：151名 対象者：233名

- ③ 生活支援有償サービス事業の実施 登録利用者14名
 清掃395回 墓参り支援102回 ごみ捨て44回 書類整理5回 話し相手51回 内服支援33回
 その他76回（買物支援・網戸掃除・カーペット片付け・シーツ交換・台風対策）
 合計706回
- ④ 生活支援有償ボランティア養成講座の開催（1回目 R4年6月2日 老人福祉センター 受講者17名・
 2回目 R4年11月28日 老人福祉センター 受講者10名）

権利擁護関係事業

- ① 成年後見事業・・・中核機関設置運営を行った。相談件数4件
 広報：社協だよりへの掲載3回
- ② 福祉サービス利用支援・・・日常的金銭管理や書類等の預かりサービスの実施。
 （のべ利用者50名 のべ利用回数989回）

地域福祉関係事業

- ① ボランティア登録・・・7団体481名 個人12名
- ② ボランティア保険加入・・・活動保険250名 ふれあいサロン1,664名 福祉サービス総合補償19名
- ③ 児童・生徒のふれあいボランティア活動・・・認定証交付 小学生4名
- ④ ふれあいいきいきサロン事業・・・実施回数147回 のべ利用者数885名 実施集落18集落
- ⑤ 生活福祉資金貸付事業・・・低所得世帯や身体障害者世帯に対し、資金の貸付と必要な援助を行うことにより世帯の更正が図られるよう援助した。
 （今年度貸付4件 のべ相談13件）

障害福祉サービス

- ① 障害者相談支援事業・・・障害者等からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言その他の障害福祉サービスの利用支援等、必要な支援を行った。（のべ利用者数122名）
- ② 障害者居宅介護事業・・・居宅において身体介護及び家事援助を行った。（のべ利用者71名）
- ③ 移動支援事業・・・屋外での移動が困難な障害者に対し、地域における自立生活や社会参加を促進するため、外出支援を実施した。（のべ支援数87回）

その他の事業

- ① 生活困窮者自立支援事業・・・生活困窮者が抱える多様で複合的な問題の相談に応じ、必要な情報提供及び助言を行い、自立の促進を図った。
 （相談件数32件 支援調整会議1回 プラン作成5件）
- ② 家電製品中継事業・・・家庭で不要になった電化製品を募り、必要としている世帯へ寄付するための中継を行った。（寄付申込者1名 受付家電1点 支援件数1件）
- ③ 福祉センター管理業務・・・のべ利用者数2,150名
- ④ 広報活動・・・社協だよりの発行：3,600部 年4回
- ⑤ 福祉タクシー事業・・・移動困難者の利便性の向上、社会参加の促進を目的に実施。
 （のべ利用者6名 回数97回）

共同募金・歳末助け合い募金運動

- ① 一般募金目標額 1,250,000円 一般募金実績額 1,185,727円
- ② 歳末助け合い募金目標額 400,000円 歳末助け合い募金実績額 420,250円

日本赤十字業務の推進

- ① 地域における赤十字社員増強運動の実施
 [社費募集内容] 赤十字社鹿児島支部目標額 985,000円 実績 1,221,000円

社会福祉法人の公益的取組

- ① 法外援護貸付資金・・・低所得世帯に対し、緊急不測の出費等に要する資金の貸付を行った。
 （貸付件数3件）
- ② おもいやりネットワーク事業・・・福祉的課題や生活課題を抱える世帯を対象に現物給付での支援を行った。
 （支援件数0件）
- ③ 福祉用具の無償貸与・・・介護認定申請時や退院時の短期利用者に無償で貸付を行った。
 （のべ件数43件 主な福祉用具：ポータブルトイレ・車椅子など）
- ④ フードドライブ・・・家庭で不要になった食品の寄付を募り、支援を必要としている世帯へ配布した。
 （支援件数0件）

令和4年度決算報告

社会福祉法人喜界町社会福祉協議会

法人単位資金収支計算書

自 令和4年4月 1日
至 令和5年3月31日

(単位：円)

勘定科目		予算 (A)	決算 (B)	差異(A) - (B)
事業活動による収支	収入			
	会費収入	850,000	788,700	61,300
	寄付金収入	1,300,000	1,369,000	-69,000
	経常経費補助金収入	4,174,000	4,107,467	66,533
	受託金収入	14,731,000	13,650,100	1,080,900
	貸付事業収入	300,000	163,000	137,000
	事業収入	10,563,000	10,847,051	-284,051
	介護保険事業収入	152,935,600	151,042,500	1,893,100
	障害福祉サービス等事業収入	3,185,000	3,339,090	-154,090
	その他の事業収入	685,000	801,297	-116,297
	受取利息収入	10,000	647	9,353
	その他の収入(雑収入)	3,110,000	3,706,822	-596,822
	事業活動収入計(1)	191,843,600	189,815,674	2,027,926
	支出			
	人件費支出	142,457,130	139,155,454	3,301,676
	事業費支出	18,881,000	17,946,731	934,269
	事務費支出	15,895,900	14,771,975	1,123,925
	共同募金配分金事業費	1,100,000	1,072,967	27,033
	貸付事業費支出	300,000	163,000	137,000
助成金支出	120,000	120,000	0	
負担金支出	60,000	26,000	34,000	
その他の支出	33,000	3,000	30,000	
事業活動支出計(2)	178,847,030	173,259,127	5,587,903	
事業活動収支差額(3) = (1) - (2)	12,996,570	16,556,547	-3,559,977	
施設整備等に よる収支	収入			0
	施設整備等収入(4)	0	0	0
	支出			
	施設整備等支出(5)	4,060,000	3,018,310	1,041,690
施設整備等収支差額(6) = (4) - (5)	-4,060,000	-3,018,310	-1,041,690	
その活動による収支	収入			
	その他の活動による収入	1,713,930	1,713,930	0
	その他の活動収入計(7)	1,713,930	1,713,930	0
	支出			
	その他の活動による支出	5,060,000	4,530,480	529,520
施設整備積立支出	5,000,000	5,000,000	0	
その他の活動支出計(8)	10,060,000	9,530,480	529,520	
その他の活動収支差額(9) = (7) - (8)	-8,346,070	-7,816,550	-529,520	
予備費支出(10)	0	0	0	
当期資金収支差額合計(11) = (3) + (6) + (9) - (10)	590,500	5,721,687	-5,131,187	

前期末支払資金残高(12)	55,848,966	55,848,966	0
当期末支払資金残高(11) + (12)	56,439,466	61,570,653	-5,131,187

日本赤十字社会費納入のお礼

今年度納入して頂いた会費は右記の通りです。皆様にご協力頂いた会費は、記載の活動の他、災害時の医療支援や救援物資の配布、青少年赤十字の育成などに活用されています。今後とも赤十字活動へのご理解とご支援をお願い申し上げます。

戸別会費	1, 103, 000円
個人会費	12, 000円
法人（企業）会費	117, 000円
会費総額	1, 232, 000円

ご協力頂いた企業様

(株) 峰山建設 (株) 比嘉建設
(有) 中村建材 (有) 深水モータース
(有) 郡石油 (有) 園田モータース
(有) ゆたか商事 (有) 吉川商店
喜界第一ホテル ビジネスホテル喜界
あまみ農業協同組合喜界事業本部
ショッピングセンターふくり

順不同敬称略

医療事業 看護師等の教育 災害救護 国際活動



※人道支援のための様々な事業に活用しています。

保健福祉ネットワーク推進協議会を開催しました

令和5年6月28日（水）老人福祉センターにおいて、「保健福祉ネットワーク推進協議会」を開催し、各関係機関の代表者10名が出席しました。本会議は2年に1回開催しており、事業概要や地域の見守りネットワークの活動状況、独居高齢者世帯・認知症高齢者等についての情報共有、意見交換を行っています。

協議の中で消防署長から、「夏と冬に2回高齢者宅を訪問している。喜界町は、火災報知器設置率80%で、住宅の火災報知器の不具合の件で連絡があった際には対応しているが、10年後は各自自己負担にて取り替えなくてはならない」との説明がありました。また、保健福祉課長からは、「ネットワーク活動は活発に活動している。2025年には団塊の世代が後期高齢者になり、さらに高齢社会となる中でボランティア活動はますます重要視されるだろう」との意見が出ました。

今後も、各関係機関と連携強化を一層図りネットワークの輪を広げて、誰もが安心・安全に暮らせる地域づくりを目指していきます。



災害ボランティア講演会・つながりワーカー養成研修

令和5年4月28日（金）役場コミュニティホールにて災害ボランティア講演会を実施しました。区長や民生委員児童委員など68名の参加がありました。本講演会は岡山県倉敷市社会福祉協議会事務局次長の佐賀雅宏氏を講師にお迎えし、「平成30年7月豪雨災害」の際に設置された災害ボランティアセンターの運営に携わったことで学んだことなどを避難所の様子を交えながらお話ししました。

また、令和5年5月10日（水）には老人福祉センターにてつながりワーカー養成研修会を実施しました。この研修は民生委員児童委員を対象に行い、グループワークを通して地域住民の変化に気付くきっかけなどを学びました。

今回実施した講演会及び研修会の目的は、コロナウイルス感染症の流行以降関係性が希薄になっている社会の中で、地域での孤立に気づき、つな

がり、見守る人材（つながりワーカー）を地域に増やしていくことです。どちらの研修にも共通していたことは、「日頃からの関係性の構築」でした。各集落単位で見守り活動等これまで実施してきましたが、お互いに気づき、声掛けができる関係性が今後も継続できるよう、集落及び関係機関と連携を図っていきたいと思います。

※本研修は、赤い羽根ポスト・コロナ（新型感染症）社会に向けた福祉活動応援キャンペーン地域での孤立に気づき、つながり、見守る人材（つながりワーカー）養成および実践活動助成を受けて実施しました。



赤い羽根共同募金にご協力をお願いします

★10月1日より第77回赤い羽根共同募金運動が全国一斉に始まります。

募金は様々な形でご協力いただいています。（期間：10月1日～12月31日）

一般募金

町を住み良くするための募金です。各世帯や企業、学校に協力をお願いしています。お預かりした募金は県共同募金会へ一度全額送金し、その後、募金額の約6割が本町地域福祉推進事業費（心配ごと困りごと相談、ネットワーク事業、広報費、福祉団体活動費）として配分されます。

歳末たすけあい募金

毎年12月に実施するチャリティゴルフコンペ、街頭募金、商店に設置した募金箱に寄せられた募金等のことです。町内に居住し、在宅で介護を受けている方（要介護3以上）にオムツ代の支援として全額配分します。



毎年恒例のチャリティゴルフコンペは、12月3日（日）に開催を予定しています。参加をご希望される方は、社会福祉協議会又は喜界ガーデンゴルフにてお申し込みください。